

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730496

研究課題名(和文) 英国移民政策と在英ブラジル人の生活戦略の基礎的調査研究

研究課題名(英文) Research about Brazilian life strategy of Brazilian in Britain

研究代表者

YAMAGUCHI A・E (YAMAGUCHI, ANA ELISA)

上智大学・外国語学部・助教

研究者番号：60453601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：ロンドン市内のエスニック・ビジネスの展開及び地理的空間が明らかになり、そこで多くのブラジル人が分散して居住していることがわかった。そしてブラジル人越境者のダイナミックな移動戦略があった。その戦略の一つが、彼ら自身が持っているエスニック資本を利用して、正規に英国に入国を果たしている。彼らは、世界経済の動きに直接影響を受ける対象者でもあるが、そうした影響を受けながらも、また新たな移動戦略の可能性を生み出している。また、「段階的な戦略移動」を行っていることも分かった。つまり、世界情勢により移動の最終的な目的地がアメリカであれ、英国であれ、別の国を経由してからそれらの国に入国している。

研究成果の概要(英文)：Through research on geographical space and the development of ethnic Brazilian businesses in the city, it was discovered that there is a large Brazilians population living in London. Brazilians in London have a dynamic immigration strategy. Their strategy relies on ethnic capital to regularly acquire forms to enter the UK. Brazilian immigrants are also directly influenced by changes in global economy. However, by utilizing ethnic capital for a new migration strategy, Brazilians are creating new opportunities and possibilities.

Research was also discovered that the Brazilian migration in London is a "strategic migration in stages." Reacting to changes in the global economic environment, Brazilians temporarily move to other countries before entering the UK.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：在英ブラジル人 越境ブラジル人 国際労働力移動 在日ブラジル人 移民政策

1. 研究開始当初の背景

(1) 9.11 同時多発テロ事件後にアメリカへの入国審査が厳しくなると、新たな就労機会を求めて多くのブラジル人はイギリスへ移動する傾向にある。しかし、アメリカと同様にイギリスにおいてもテロ事件が発生したにもかかわらず、なぜブラジル人の移動戦略はイギリスに向けられたのだろうか。イギリスの場合はアメリカや日本と違い EU 加盟国であるため、特殊な入国ルートがある。本調査ではイギリスへの入国方法の1つに注目した。なぜなら 1992 年にイタリア政府は自国移民に対する特別な緩和政策をとり、イタリア系であることを証明すれば、市民権の取得を可能としたためである。イタリアの市民権を取得すれば EU 加盟国であるイギリスに自由に入出国ができるため、イタリア系ブラジル人はこれを取得後賃金の高いイギリスへ移動する。このように、在英ブラジル人には他の外国人と異なった移動戦略があるのである。

(2) イギリスに移動した一部のブラジル人と在日ブラジル人の共通点は、両国の受入政策にある。つまり、祖先が日本やヨーロッパ諸国出身であるとき、その条件を利用し、それらの子孫が国際的な移動を行っている。日本、イタリア、ドイツ等は 19 世紀に国策によって、自国民をブラジル等の国々へ送り出した歴史を持つ。現在、当時の移民の子孫及び家族が受入政策の改正をきっかけに祖先の故郷に雇用を求めて移動している。ただ、日本は正規の在留資格を取得して入国できるが、もう1つの目的地であるイギリスにはイタリアを経由し EU 加盟国の市民権を取得して入国する。この点が日本とイギリスの最大の違いである。また、日本は移動を支援する独特のシステムがあるが、イギリスの場合は、その主な移動が一般的な個人ベースの連鎖移住となっている。

2. 研究の目的

(1) 研究目的は、日本と英国に滞在するブラジル人家族の生活状況、移動形態、家族および世帯レベルの比較研究を基に、今後の国際比較研究のための基礎的な新視角構築にある。 ロンドン市内にあるエスニック・

ビジネスとブラジル人集住地の地理的空間を把握する。 ブラジル人のイギリスでの法的地位と移動戦略の相互関係を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 在英ブラジル人が在日ブラジル人と大きく異なる点は、在英ブラジル人はイギリス各地に移動せず、ロンドン市内を中心とする労働市場を求め移動するという点である。そのため、ロンドン市内で就労しているブラジル人に聞き取り調査を行った。「ブラジルウォーター(Brazilwater)」と呼ばれている地区周辺に調査を開始した。この地区はブラジル人向けのショッピングモールがあり、その中にブラジル料理店、ブラジル食品店、海外送金窓口、美容室がある。その周辺で働いているブラジル人または居住しているブラジル人が主な客となっている。

(2) エスニック・ビジネスのデータは 2 つの方法で収集した。1 つ目は、ブラジル人向けのフリーペーパーと、新聞やパンフレットに記載されたエスニック・ビジネス広告によるもので、これをもとに一覧リストを作成した。2 つ目は在英ブラジル人向けのビジネス広告のインターネットサイトに登録された全てのビジネス情報である。このサイトはタウンページのような仕組みとなっており、ロンドン市内にいるブラジル人のための生活、就労、不動産、医療にかかわるビジネス情報を記載している。

4. 研究成果

(1) 上記の方法により、調査で収集したエスニック・ビジネスは全部で 543 件となっている。この調査の目的はエスニック・ビジネス数からブラジル人集住地の規模や集中度を把握することであり、それぞれのビジネスの規模に焦点を定めている訳ではない。データ収集にあたっての条件は、ブラジル人向けのビジネスであること、所在地が正確に記載されていること、インターネットのグーグルマップ上で所在が確認できることであった。

(2) インターネットサイトに記載されたビジネスの分類は 40 項目に分かれていたが、

本論文では 14 種にまとめている。その内訳をみると、最も多いのが「ブラジルの飲食関係」で 111 件と、全体の 20.4% を占める。この項目は、レストラン及びバー（73 件）やブラジル食品店（27 件）、軽食店及び出前（11 件）に分かれている。この飲食という類型にはブラジル料理のレストランだけでなく、ブラジル料理とポルトガル料理、両方を提供している店もあった。イギリスにあった多くのレストランはブラジル人客を想定して経営されている。筆者が通ったレストランの多くはブラジル人客が大多数であり、店のオーナーへのインタビューからも、多くの客がブラジル人であるという事実を確認できた。つまり、日本と同じようにブラジル料理のレストランは必ずしもブラジル人以外の客のために作られてはいないのが 1 つの特徴である。しかし、バーやカフェはレストランとは対照的に、ブラジル人の客が少ないのが特徴である。どの店のメニューもほとんど変わらず、ブラジル料理が少ない。2 番目に多いのが「美容関係」であり、全体の 20.3%（110 件）となっている。110 件の内訳を詳しく見ると美容室は 64 件で、エステサロンが 40 件、脱毛サロン等が 6 件となっている。実はロンドン市内にはブラジル人向けの美容室が驚くほど多い。その規模も様々であったが、美容室を開業しているところもあれば、顧客に対する自宅訪問サービスを行う店もある。いずれにしても、ブラジル人が集住している場所には、美容室やネイルサロン、エステサロンの広告が目立った。日本にもブラジル人向けの美容室があるが、その数はロンドンに比べると圧倒的に少ない。3 番目に多いエスニック・ビジネスは 49 件で全体の 9.0% を占める「パーティ関連・その他サービス」である。これらの項目の多くは個人単位でサイドビジネスを行っているブラジル人であり、このサービスはブラジル人コミュニティの需要を満たすためのビジネスとなっている。日本でも家計を支えるため、自宅でパーティ関係のサイドビジネスを行っているブラジル人がいる。彼らは日本語及び英語のできない人や時間がない人のかわりに、会場を借り、室内を装飾し、食べ物などの準備を行う。

（ 3 ）

ロンドン内には多くのブラジル人が分散して居住していることがわかった。とはいえ、ウエストミンスター地区とブレント地区は比較的集住度が高いといえよう。いずれにせよ、エスニック・ビジネスは最も中心街に位置していることがわかった。

エスニック・ビジネスを集計したところ 554 件あった。ロンドン地区内にあったビジネスは 543 件となっており、ロンドン以外の地域は 11 件である。ロンドンの 33 地区のうち、ブラジル関連のエスニック・ビジネスが所在する地区は 31 地区となっている。つまり、ほぼすべての地区にブラジル関連のビジネスがあり、ブラジル人が居住しているといえる。

（ 4 ）

インタビューしたブラジル人調査対象者は 35 人であった。しかし、35 人中 3 人はコミュニティリーダーである。男女の比率は男性が圧倒的に多く 23 人となっている。調査対象者の平均年齢は 35.3 歳で、学歴は比較的高く、32 人中 20 人が大学中退者及び卒であり、高卒 11 人、専門学校卒 1 人となっている。

この調査の対象者のうち 17 人が 2005 年のロンドン同時多発テロ事件後にイギリスに入国している。2005 年以前にブラジルを出国したのは 15 人であった。そして、

6 人はテロ事件の前にイギリスに入国していたが、事件後に入国した人はポルトガルやイタリア、日本を経由してイギリスに入国していたことがわかった。

まず、多様な就労に従事している人を対象に予備調査を行った。この調査において対象となったのは、サービス業 6 人、ハウスキーパー 1 人、エスニック・ビジネスのオーナー 3 人、支援団体所長 1 人、専門職 2 人となっている。

本調査は在日ブラジル人との比較研究を目指しているが、今回の予備調査の対象者となったのは、EU 諸国の市民権を取得した者がほとんどだった。全体の 59.4% はイタリアン市民権取得者である。その内訳は、非正規労働者 3 人、イタリア市民権取得者 19 人、ポルトガル市民権取得者 2 人、スペイン市民

権取得者 2 人、EU 諸国者の配偶者を持つ者 2 人、アメリカ人の配偶者 1 人となっている。

(5)

現時点の調査結果で明らかになった点は以下の通りである。 ロンドン市内のエスニック・ビジネスとブラジル人集住地の地理的空間、そしてブラジル人越境者のダイナミックな移動戦略である。その戦略の 1 つとして最も使われているのが、彼ら彼女ら自身を持っているエスニック資本である。つまり、彼ら彼女らは血統やエスニシティを利用して、正規にイギリス入国を果たしている。世界をまたにかけダイナミックに移動する彼ら彼女らは、同時に世界経済の動きに直接影響を受ける対象者でもあるといえる。しかし、そうした影響を受けながらも、また新たな移動戦略の可能性を生み出しているのである。たとえば、本調査の対象者は 2008 年の世界同時不況により日本で解雇されたが、彼らが持っているネットワークや情報を活かすことで、イギリスへの移動を実現させた。さらに配偶者の市民権取得の可能性によって新たな移動戦略を立てることができた。こうした点からも彼ら彼女らは、自らが持っているエスニック資本や人的資本を最大限に利用した移動戦略を立てながら移動していることがわかる。

イギリスにいるブラジル人は、「段階的な戦略移動」を行っていることも分かった。つまり、世界情勢により移動の最終的な目的地がアメリカであれ、イギリスであれ、必ず別の国を経由してからそれらの国に入国している。それを可能にしているのはポルトガルやスペインにブラジル人コミュニティが存在する点と、言語が類似している点である。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

ヤマグチ・アナ・エリーザ、「在英ブラジル人についての基礎的調査研究」第 2 3 回日本移民学会 (武蔵大学) 2013 年 6 月 2 9 日-3 0 日。

〔図書〕(計 1 件)

アナ・エリーザ・ヤマグチ、上智大学イベロアメリカ研究所「在英ブラジル人についての基礎的調査研究」2012、ラテンアメリカ・モノグラフ・シリーズ、No.23、1-34 頁。

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

ヤマグチ・アナ・エリーザ (YAMAGUCHI, Ana Elisa)

上智大学・外国語学部・助教

研究者番号 : 60453601

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :